

ヤングケアラーに関する実態調査について

1 調査の目的

本県の「ヤングケアラー」の家庭や家族の状況を調査・分析することで、独自の課題を明らかにし、今後の施策に反映させるため、児童生徒や学校に対し実態調査を実施する。

2 実態調査の概要

(1) 調査対象

県内の公立学校に通う児童生徒

<内訳> 279校（約38,700人）

小学校（6年生） 164校（約 5,700人）

中学校（1～3年生） 82校（約17,100人）

高等学校（1～3年生(全日制)） 33校（約15,900人）

(2) 調査期間

令和 4 年 7 月 1 1 日（月）から同年 8 月 5 日（金）まで

(3) 調査方法

原則、1人1台端末により回答

（個人のパソコンや携帯電話等での回答も可能とする。）

無記名調査とし、児童生徒が安心して回答ができる環境が確保されるよう配慮する。

(4) 調査項目

国の実態調査の調査項目を利用（20問程度、所要時間10～20分）

<調査項目>

- ・ヤングケアラーと思われる子どもの実態（普段の生活、家庭や家族に関すること等）
- ・ヤングケアラーへの支援に対する希望
- ・ヤングケアラーの認知度 *中高のみ実施

(5) 学校に対する実態調査

国の実態調査の調査項目を利用（20問程度）

<調査項目>

- ・ヤングケアラーへの対応（体制、実際の対応状況等）
- ・ヤングケアラーの認知度

3 今後の予定

(1) 調査結果がまとまり次第、「速報・概要版」及び「全体版」により報告

(2) 収集したデータは、「ヤングケアラー」支援施策に活用いただくため、各市町村ごとに情報提供